

平成二十一年度

和歌山県立中学校
(向陽中学校)

作文

(十一時十五分～十二時)

(注意)

- 一 「はじめ」の合図があるまで、開いてはいけません。
- 二 「はじめ」の合図があったら、まず、受検番号をこの冊子と原稿用紙（しゅう）の二か所に記入しなさい。
- 三 作文は冊子の中にある原稿用紙に書きなさい。
- 四 印刷が悪くてわからないときや筆記用具を落としたときなどは、だまって手を挙げなさい。
- 五 時間内に書き終わっても、そのまま着席していなさい。
- 六 「やめ」の合図があったら、すぐに書くのをやめ、二枚重ねて置きなさい。

受検番号

【一】 次の文章は、小学校六年生のみどりさんが書いた「小学校で学んだこと」という題の作文の一部です。この文章を読んで、あとの問いにしたがって作文を書きなさい。

小学校の六年間で一番印象に残っている言葉は、「和」です。すべての教室には「和」と書いた額があり、私たちは毎日この言葉を見ながら過ごしてきました。

入学したころ、校長先生が、

「みなさんの教室にある『和』は、学校が一番大切にしている言葉です。『和』という言葉の意味は『だれとでもえ顔でなかよくすること』です。『和』をいつも心において、この小学校でいっぱい友だちをつくりましょう。」

と、教えてくださいました。それから、私はいつもえ顔を忘れずに友だちを大切にしてきました。

しかし、五年生の終わりのころ、「みんなと仲良くすること」ばかり意識しすぎて、いやなことがあっても、ニコニコしている自分に少しつかれてきたのです。もちろんけんかなどしたことはありません。けんかになりそうなきでも、自分の言いたいことをぐっとこらえて、相手の考えに合わせようと思いました。そのときは、「これでいいんだ。」と自分に言い聞かせていました。

そして、六年生になったある日、学級会で担任の先生が、教室の「和」の文字を指さして、こんなお話をされました。

「みんなが、一年生から毎日見てきたこの『和』って何だろう。けんかをしないで仲良くすることだけが『和』なのかな。先生は、考えがちがうなら、時にはおたがいがぶつかり合うことも必要だと思います。人と人が、本当に分かり合うとはどういうことなんだろう。小学校最後の学年、みんなでその答えを探してみよう。」

先生のお話は今までの私をふり返る大きなきっかけとなりました。

【問い】 みどりさんが自分をふり返るきっかけになった、担任の先生の「和」の話について、あなたはどうか考えますか。あなたの小学校生活での経験を交え、六〇〇字程度で書きなさい。